

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	散歩、ウォーキングで戸外に出て身を動かすことができ、日常生活の中で入居者同士の会話等でお互いさまの気持ちが育まれている場面があります。コロナ禍で地域行事、外部の方とのふれあいはありませんでした。	散歩などで外に出た時の利用者どうしの声の掛け合いや、施設内でウロウロしている利用者への利用者が声を掛けて誘導したり、日常生活の中で助け合いの場面など理念の実践を見ることができます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日のウォーキングや散歩で近隣、公園内で挨拶や声掛けをしています。(馴染みの方に多く声を掛けていただいています)コロナ禍で地域行事がなかったので行事を通しての交流はありませんでした。	散歩やウォーキングで地域に出た時、出会った人たちとお互いに声掛けをして、地域とのつながりを確認できています。コロナ以前は、クリーンデイなど地域行事へも参加して交流していました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を施設内で行い、近隣の方にお知らせしたり参加していただいたりしました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、運営推進会議は議事録を郵送し、サービスの報告等しております。ご意見等はお手紙、メール、FAXでいただいております。ご家族や相談員さんからのご意見も役立っています。	現在、本来のメンバー(家族、地域包括、市の相談員、他のグループホーム、町内会等)による運営推進会議は開催していません。メンバーに提出している資料では施設運営の一端が窺える内容になっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係を築いて丁寧な説明を受けられるようにしたいです。	運営推進会議のメンバーである地域包括、市の相談員、他のグループホーム、町内会等とは運営委員会の資料の送付等を通じて何時でも意思疎通できる関係を構築しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を把握しています。ユマニチュードの実践、せかさないケアの取り組み、定期的に身体拘束廃止の内部研修を行っております。施錠は、どこからでも出ようとする方がいるので安全確保のために玄関施錠・リビング窓に簡易的な鍵をつけています。	どこからでも外にしようとする利用者があるので、玄関は施錠しリビングの窓には簡易的な鍵をつけていますが、それ以外の身体拘束については実施しないよう、研修も行い十分理解しあえるよう努めています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1回、施設内研修として課題を職員間で話し合いロールプレイングを用いて実際のケアに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は使用しているも、職員すべてが制度のことを熟知はしていません。権利擁護について講習に参加し、資料を参考にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し、理解・納得をしていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価のアンケートを活かして改善したり、利用者から相談員さんへ、そして施設へ意見が届くこともあります。訪問されないご家族へは時々電話をして意見をいただいております。	運営に関する利用者、家族の意見は外部評価の利用者アンケート、利用者の相談員や施設への声、また家族ノートおよび利用者への電話等の手段で集め、職員に回覧しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週4日のミーティングで新聞記事を読み勉強会をしたりシミュレーションを用いて職員の意見や提案を聞き気づきや改善点を話し合っています。	運営に対する職員の声は、週4回の職員ミーティングにおいて、施設の理念に則り、お互いの意見や提案を出し合い気づきや改善点を話し合っています。	ITを生かした記録システムの構築についてご検討いただければと思います。ノートの活用は便利の反面、異質な情報が混在している不便もあります。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ほとんど把握できています。ご本人の長所や得意としていることを十分に発揮できるように支援しています。研修等の参加促進、労働時間、勤務日も殆ど希望が通っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加、内部研修とも随時行っています。OJTも行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で同業者と交流する機会がほとんどなかったです。地域ケア推進会議には参加していました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最重要と考え行っています。周辺症状が減っていくのを実感できます。個別に話を十分聴くようにしていつもありがとうございます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に話を聞いて改善に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をご家族、ご本人から十分得て、安全で安楽な生活が得られることを最優先に行うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対等の関係を築けるように努めています。すべてのことを否定しないように努めたことで、支え合う関係を実感できました。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られるご家族とはご本人の日常生活をまめに伝えられ介護に協働してもらえます。手紙や電話でのやり取りもサポートしております。家族の絆を一番感じられる場面ですので病院の付き添いは極力ご家族にお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で以前のようにはいきませんが、ご家族との手紙・電話でのやり取りや玄関内外での対面の面会や短時間の居室での面会は可能にしております。	馴染みの人や場との関係継続については電話や手紙のやりとりの仲介、限られた人については、玄関での短時間の面会の他居室での面会も出来るようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩の組み合わせや全員で参加できるレクリエーション等を通じて関わり合いを持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例がありません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に添えるケアは取り組めています。買い物に行きたいという意見も多い為、コロナの状況を見て、行けるようにしたいです。ご家族との外出も検討しています	利用者によっては自宅がどうなっているのか気になるために外出をしたがる人もいます。買い物に出たがるひとも多くいます。利用者一人ひとりの身になって外出を実現したいと思っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握に努めています。 日々の一人ひとりの観察がとても大事だと考えています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人からも日々の会話の中からどう楽しく生活したいかを聴き、ご家族にもお伝えし、ミーティングで検討し、介護計画を作成しています。	利用者の意向は日々の介護の中で聞き出し、ケアミーティングノートに書き留めサービス担当者会議で共有し、家族にも伝え、介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、すべての職員が目を通しており、気付いた点をミーティングで話し合い、介護計画にも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化に合わせて、対応しています。(排痰の困難な方にはタッピング、下肢の浮腫にはマッサージ、四肢の委縮には伸展・屈曲運動を施行)衣服・日用品などの必要な物の買い物のお手伝いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人でホームを出てしまった時など知らせていただいた時もありました。散歩は緑豊かな広場に毎日行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を続行希望されている方もいます。主治医との信頼関係が得られており、安心して受診されています。	かかりつけ医を受診する際、利用者の1日の状態を記録したファイルを持参してもらい、日ごろの利用者の状態を共有することで信頼関係を築くようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察が十分できており、即報告、即対応しており利用者はさんは適切な支援を受けられていると思います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	二つの協力病院とも、認知症の方を十分理解してもらえており、早期治療、退院に向けて協力的です。各人の特徴も伝えてあり、治療方針にも活かしてもらっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所後早い段階でご本人、ご家族と話し合っています。看取りは可能ですが死亡確認が遅れることもある、ということもお伝えします。看取りに関する指針の改定。2ヶ月に1回の看取りについての研修を行います。	入所後、利用者、家族の状態を見極めて、施設での看取りについてのプロセスを説明して、看取りの同意書を交わしています。2ヶ月に1回の看取りの研修を実践することで、利用者と一緒に生活したことに感謝して送ることができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生術、誤嚥対処法、止血法、生命徴候のとり方等定期的に訓練しており、職員の70%位は応急処置ができます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内避難訓練、消防署指導の避難訓練に入居者さんと職員で参加しています。火災時、地震時の避難方法を訓練しています。災害時の個別避難マニュアルの改定。	入居者と職員と一緒に消防署指導で避難訓練している様子を写真で確認しました。夜間想定避難訓練は実際には行わず、災害マニュアルを活用して机上で職員が訓練をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定的な言葉は使わないようにしています。人生の先輩として、敬う気持ちは常にもっています。他者の前での誘導時の声掛けは自身をなくさないような声掛けに気をつけています。入居者さん同士のやりとりも職員が間に入り、互いに嫌な気持ちにならないように気をつけています。	入居者は人生の先輩であり、敬う方達との思いを持ち言葉使いは丁寧に、トイレ誘導は小声で周りの方に気付かれないように支援しています。利用者をお呼ぶときは、ご本人の希望で、性や名前で呼んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に気をつけて声掛けして、ご本人の思いを引き出すようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送れるように支援しています。入居前の不規則な生活の方も規則正しい生活を取り戻せるようにしています。その日の過ごし方について、ご本人からの希望があれば希望に添うよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方は、その人らしくきれいにされており、さりげなく合う服を進めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんの各々知的、身体的状態により職員と一緒に食材の皮むき・餃子包みをしていただけます。ご利用者のお誕生日や内イベントで職員の手作りケーキを提供しており、とても喜ばれております。	日常的に利用者の好みを把握し、食事メニューに活かし楽しくイベント食やケーキを食べている様子を写真で確認出来ます。準備や配膳、後片付けは一緒に行いADLの低下を防ぐ取り組みを行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほとんどの職員が、食材や量のカロリーをおおよそ把握しています。水分も十分摂っています。お茶・スープをあまり飲まれない方には、好きなジュースをお出ししています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態や能力に応じて、声掛け・誘導・見守り・一部介助・全介助にて毎食後の歯磨きをしています。介助の拒否のある方には歯科衛生士さんにケアしていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2時間毎にトイレ誘導し、排尿パターンを把握します。リハビリパンツやパッドをトイレに流してしまうことが多く、トイレの故障につながるため布パンツに変更している方が何人かいます。一人ひとりのトイレのサインをキャッチし、トイレ誘導することで自身をなくさないように気をつけています。	排泄パターンを把握して自尊心を傷つけないようにトイレ誘導を行っています。リハビリパンツやパッドはトイレ故障を防ぐため布パンツ使用に変更する取り組みを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	玄米2食と野菜を多く取り入れ水分も十分摂っています。ほとんど毎日ウォーキングをしていますが便秘の方が多いです。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に3回で、曜日や時間は決まっていますが、週に1回の方や曜日以外での入浴介助も各利用者さんに合わせて対応しています。	施設の入浴の基本は決まっていますが、なるべく利用者の希望する曜日、時間に合わせて対応しています。個浴でゆっくり入浴を楽しんでもらい、職員は安全確保を優先して見守りをしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良時、希望時、自ら寝に行かれる方もいますが、ほとんどの方は昼寝はされていません。ラジオを聴きながら眠られる方もいらっしゃいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の主作用はほとんど把握できています。しかし副作用については十分な把握はできていませんのでミーティングで時々勉強しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理(野菜・果物の皮むき・餃子包み)、裾上げ・洗濯物畳み・床拭き掃除をいただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は毎日のウォーキングや散歩をしています。コロナ禍で外出・外食を控えています。ご家族様来訪時、近隣の広場へお散歩に出かけられる方もいます。毎日の生活にメリハリが出るように支援に努めております。	毎年散歩したり、外食して楽しんでいましたが、コロナ禍で今は控えています。外気浴をかねて施設の周りを散歩する等で生活にメリハリをつけ、QOLを大事にする支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今では数名しか所持していません。職員と一緒に新聞屋さんへ新聞を買いに行かれる方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があったり、贈り物のお礼を言う時に電話しています。手紙は以前のように書ける方が少なくなりましたが、しっかりと書ける方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者とスタッフで制作した物や花を飾り明るい雰囲気にしており、季節の植物を利用しカレンダーを作る等季節感も取り入れています。	玄関には利用者が生けた生花が置かれています。廊下には利用者が色紙で手作りした花を壁掛けにして飾っています。リビングには利用者が手作りしたカレンダーを飾り、利用者のやる気を引き出す支援をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに移動してお話されたり、雑誌などを一緒に見て楽しまれています。気の合う方の席に行き昔話などをされ楽しそうに過ごされています。 居室を訪問したり、されたりしてらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物がある方は、ご家族の方が飾って下さり、使い慣れた物を入れていらっしゃいます。	居室は利用者の思いを入れ、できる限り自宅から持ってきています。利用者の中には仏壇が置いてあったり、お位牌がいくつも置いている居室もあります。利用者の気持ちを大事にする支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	矢印などで誘導線を表示したり、手摺やエレベーターの使用で自立に役立っているようです。		